



# 館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 5 月 18 日(土)

発行 館長 加藤 智 一

## 日常に存在する防災のヒント

過日、防火・防災管理講習に行きまわりました。もちろん第一の目標は、講習修了証をもらう事です。なんのために？産業科学館の防火・防災管理者に必要なからです。

今まで、さんざん学校の避難訓練や防火・防災計画書作りに携わってきているのに、資格は持っていませんでした。これはしたり。早速受講開始。今までの私は、どちらかというと「法律に定められているのだから仕方なくやる」的な態度で、やっつけ仕事丸出しで事に臨んでいたのだという事を痛感させられる 2 日間でした。

防火・防災管理の意義は、建物を使用する人たちが協力しあい、一丸となって火災・災害の発生を防ぐと共に、万一火災・災害が発生した場合でも、早期に発見し、通報するだけでなく、初期消火や避難活動を行って、被害の拡大を防止するよう努力することです。ですからそのためには、設備などのハード面が完備されているから安心だと過信するのではなく、訓練や備えといったソフト面からのアプローチが重要である事を思い出させていただきました。

思い起こせば 20 年前、2004 年（平成 16 年）10 月 23 日 17 時 56 分、新潟県中越地方を震源として発生した M6.8、震源の深さ 13 キロの直下型地震、新潟県中越地震がありました。東日本大震災より前の話です。この時私は県庁勤務で、教育委員会代表で災害救援活動に参加していました。派遣されたのは小千谷市体育館（運動公園）。波打った姿の高速道路をゆっくり急いで、注意しながら公用車で向かいました。体育館近隣の住宅の多くは、比較的新築が多く、倒壊はしていませんでしたが、後で聞いたら内部はぐちゃぐちゃだったそうです。液状化現象で、道路のマンホールは浮き上がり、注意しないと車の移動は危険な状態でした。少し離れた所にあった古い建物は全壊でした。こんな状況ですので、インフラは電気だけ復旧していましたが、ガス、水道はまだの状態でした。ここで私たちは主に、トイレ関係の後始末を担当していましたが、グラウンドに設置された簡易トイレも館内のトイレも、水洗です。どこから水を調達したと思います。プールです。ここで

思わぬ発見をしました。水を張ったプールは、地震による揺れをうまく吸収したらしく、漏れもなく、天井は落ちましたが、水は使えたのです。防災の観点からプールには常に水を張っておくものだと痛感しました。

次に食料の話。毎朝ほぼ決まった時間に発生する地震に食欲はありませんでしたが、私たちが到着したときには、ペットボトルの水が 10 トントラックでどこからともなくやってきていましたので、飲み水にはこまりませんでした。食事は、はじめの 3 日間は大変だったそうです。一週間も経つと、全国各地から様々な食料が届きましたし、自衛隊の炊飯車両のおかげで、温かい食事にもありつけました。

ここで学びました。「とにかく 3 日生き延びる準備をしておけばあとは何とかなる。」と。

実のところこの防火・防災講習はさぞかし眠気との闘いになるだろうと予想して臨んだのですが、豈凶らんや、最後にテストがあると聞いて眠気も吹き飛び、さらに中越地震の事を思い出していたら、自分の生活態度、習慣に思いが及ぶこととなりました。私は防災に役立つ行動を何かしているのだろうか。それが意外と難しい話ではない事にも気づきました。例えば毎日の掃除。新聞紙の束を階段の踊り場なんかに溜めておかない（避難経路の確保）。コンセントまわりの埃はこまめに取り除く（漏電出火対策）。棚に物を詰め込み過ぎない（落下防止）。庭の草取りや郵便受けの点検（放火防止）。これらすべて、防災ではないですか。さらに、ご近所付き合いは地域住民の避難に役立つ情報を与えてくれますし、芋煮会は非常時の炊き出し訓練になります。町内一斉清掃に参加すれば、公園の防災用具置き場の確認や避難経路、避難場所の確認もついでにできてはいませんか。つまり、日常において、丁寧な生活をしていれば、立派な防災活動なのです。

なに、それが難しいのだと・・・・・・・・。

